

解答

問一 a つ「いで」 b きょくち
 問二 エウ
 問三 ウイオ
 問四 ウイオ
 問五 ウイオ
 問六 ウイオ
 問七 ウイオ
 動物が、まわりの環境の中から、自分にとって意味のあるものを認識し、構築した世界。

問一 a 浴「びる」 b 優勝
 問二 ① イ ② オ ③ ウ ④ ア

舌 補欠として
 片岡さんも、陰で日都子をヒトツコと呼んでいたことがばれたと思ったから。
 問六 問七 問八 イ

A ア B ウ C イ D イ

解説

一

問三 ——線一の前に説明があります。かつての「自然科学的」な認識では、環境は客観的に存在し、すべて数字で記述できると思われていたという内容から、「すべて数字や言葉で言い表せるものである」という記述を含む、選択肢ウが選べます。

問七 直後から理由がわかります。その当時の科学は唯物論的に物を見なくてはならないということになっていて、この世の中に存在しているものをわれわれが認めなければ科学はできないという内容から、「もともと存在しているものを人々が認めるという科学の考え方」という記述を含む、選択肢ウが選べます。

二

問三 ——線一の前に着目します。「手が届くのなら、自分を指さすその手をペシンと叩き落としてやりたい。」

思いながら、大人しく廊下に出た様子から、日都子が片岡さんに對し、感情的な気持ちを抑えていることがわかります。そこで「自分の本当の気持ちをかくして適当に片岡さんの言葉に調子を合わせようと思った」という記述を含む選択肢ウが選べます。

問八 本文には、文化祭で行われる合唱コンクールの練習風景が描かれています。日都子は、片岡さんがクラスの王様でそれ以外の生徒は命令に従っていると、冷静にクラスの様子を眺めています。また、自分自身はいじめにあつたつらい経験から心が強くなり、自ら孤独を選択しようと思っていることから、最も適当なものとして選択肢イが選べます。